

【高齢者の生きがい】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

2 高齢者の生き方

(2) 生活と利益

生きることのすばらしさを感じることは、その人にとっての最大の利益であり幸福です。

大きな病気にかかり、人の介護が必要になったり、痛みを伴う毎日を過ごすことを考えるだけでも悲しくなります。

誰でも死にたくないし、最後まで自分らしく生きたいと思うことは同じだと思います。

今の社会、当面の社会において、そういう環境がととのっているとはいえない状況です。

人によって価値判断は異なりますが、多くの人の幸福感は同じだと思いますし、変化の度合いはそれほど大きくはないと思います。

一番の問題は人間関係だと思いますが、今の世の中ではその人間関係を大きく作用しているのはお金ではありませんか。昔からお金が人を動かしていますが、現在も同じであり、その金額の大きさと幸福感も異なり、夢も変わってきます。

生まれた時から平等に生きていく機会が与えられていないし、その環境で生き方、幸福感、夢の達成感も大きく変わっていることも当たりまえですし、そのことに対する不満を持つことが人によって何時からなのかが異なることもありますが、多くの人はそれを感じて生活しています。

生まれた時の環境が変化し、少しでも生活環境が良くなれば、幸せを感じて生きることができるが、あまり変化がなければ不平、愚痴の多い生活になってしまいがちになると思います。

生きる幸せに疑問を感じて、これからも生活しなければならない高齢者だけにはなりたくないと思っている人が大半だと判断します。けれども現実はそのような甘いものではありませんし、それを許すような世の中でもありません。

厳しい社会をどう生きてきたのか、これからをどう生きていくかも大きな問題です。

これからの問題点は多くあり、そのことに対する不安もかなり厳しい状態ですし、課題を持って生きることの現実、そのことに対する解決策はある程度解りますが、一番の解決策は宝くじに当たれば（大きな賞金）良いことだと思いますが、悲しいことです。

これも現実です。